愛知社保協ニュース

2023 年 10 月 2 日 No.213

愛知県社会保障推進協議会　TEL:052-889-6921　FAX:052-889-6931　Email：syahokyo@airoren.gr.jp

9月29日マイナ保険証一本化反対　集会・デモ
夜の久屋公園・光の広場から栄、そして矢場町まで

「マイナ保険証一本化反対　マイナカードを強制するな　今の保険証、勝手になくすな　命を守る保険証残せ　個人情報、勝手に使うな　私の情報、私のものだ」のコール!!沿道から飛び入りも!!

9月29日18時30分、集会とデモが開催されました。集会主催者挨拶では、濱島弁護士から「マイナンバーカードやマイナ保険証を巡るトラブルが連日のように報道されて、私たち市民の不安・不信は高まるばかりです。 にもかかわらず、政府は、現行保険証を来年秋にも廃止するという方針を崩しません。それどころか、マイナ保険証一本化の方針は維持したまま、持たない人には資格確認証を交付するという本末転倒な対応をしようとしていますが、余計にトラブルが生じるだけでしょう。そこまでして、本来、任意取得のはずのマイナカードを事実上強制取得させ、マイナ保険証に一本化させようとするのはなぜか？　企業が政府が私たちの情報を一方的に吸い上げ、商売や社会保障費削減に都合よく利用したいだけだという思惑が透けて見えます。マイナ保険証への一本化を強制するのはどう考えてもおかしい。命に関わるようなトラブルの発生、マイナンバーカードの所持や管理が難しい人はどうなるのか、また、行政窓口の混乱や、地域の開業医への負担など、問題点が山積しています。これらの問題点を共有し、一致するできる点でつながって運動を広げていこうと、愛知県医療介護福祉労働組合連合会・愛知県社会保障推進協議会・愛知県保険医協会・憲法と平和を守る愛知の会・憲法をくらしと政治にいかす　改憲NO！あいち総がかり行動・秘密法と共謀罪に反対する愛知の会の6団体が『マイナ保険証一本化反対実行委員会』を立ち上げ、市民のみなさんとともに、この大集会を開催しました。まず、今日、ここ名古屋・栄から、『STOP！マイナ保険証一本化』の声を上げましょう。それから、保険医協会・社保協の共同署名『現行の健康保険証を残してください』広げ国に届けましょう。マイナ保険証強行を止めるのは今です！」

各現場からの報告は、医療現場から板津慶幸さん（愛知県保険医協会）、高齢者施設から矢野彩子さん（愛知県医療介護福祉労働組合連合会）、自治体現場から磯村和佳子さん（名古屋市職員労働組合、おきざりにされる当事者から　梅尾朱美さん（愛知視覚障害者協議会）　からありました。

板津医師は、「保険証廃止したら、全国で 100 万件のトラブルが起きると推計されている。医療負担の割合のトラブルが多く、今は保険証を持っていればすぐに窓口で訂正できるが、これができなくなる。保険証を残しておいて困る人は誰もいな

い。」と保険証廃止の危険性が報告されました。 医労連からも、「今の保険証と違ってマイナカードは施設で預かれないので、簡単に受診できなくなる。本人が受け取れない証明を施設が出さねばならず、負担も大きい」と介護施設職員からの不安の声を紹介しました。

視覚障害者の梅尾さんから「マイナカード自体の申請を拒否された障害者がいる。誰ひとり取り残さないと言いながら、条件に合わない人を排除する政府に怒りを禁じ得ません。これまで申請をしなくても新しい保険証が送られてくる、暗証番号もいらないのが私たち障害者にはとりわけ便利でした。これを納得できる理由もないまま、なくそうとしている」（写真　前頁左下）と憤りの声が発言されました。

愛知県議会請願提出　末永けい議員・下奥奈歩議員が紹介に

2023 年 9 月 29 日二人の議員の紹介をいただき、愛知県議会へ請願を提出することができました。県議会の各会派に協力要請をし、結果は 2 人の協力を得ることができました。「現在の保険証を残してください」の請願について、他の会派からは、「考えが違う」などの回答でした。末永けい議員からは、「説明に来て欲しい」の連絡を受け、保険医協会日下さんと社保協小松が説明し、快諾を受けました。末永議員、下奥議員ご協力ありがとうございました。(写真は、末永議員のサイン入りの請願書)

あいち自治体キャラバン　事前学習会始まる

２０２３年愛知自治体キャラバンの事前学習会が、9 月 26 日岡崎市、一宮市を皮切りに各地で開かれています。事前学習会では、今年のキャラバンの特徴点を紹介しながら、懇談当日の発言の分担など相談しています。ぜひご参加ください。開催予定は、愛知社保協 Hp を参照してください。

国保改善運動学習交流集会　10月1日労働会館東館ホール+Web にて開催　34 人が参加

１０月１日愛知社保協主催、社保協東海ブロック共催でした。基調報告は「国保をめぐる動向と改善のための課題・運動方向」と題し、澤田和男氏（愛知社保協副議長・愛知県国保運営協議会公募委員）が講演(写真・右)。続いて、「２０２３年愛知自治体キャラバンに向けた『国保』分野の陳情項目と要請のポイント」を伊藤剛氏（愛知社保協国保対策委員会・愛知県保険医協会）（写真

次頁）から。各地取り組みとして、①「豊橋市の国保および滞納整理の現状と問題点について」鈴木みさ子氏（豊橋市議）。②「一宮国保改善の取り組み」渡邊智史氏(一宮市議)、③「経済的事由による手遅れ死亡事例調査の報告」林果歩氏（協立総合病院医療・福祉サポートセンター）、④名古屋の国保改善の取り組みについて　ア「名古屋市国保自治体国保への国の圧力との闘い」岡田ゆき子(名古屋市議)、イ「名古屋の国保と高齢者医療をよくする市民の会のとりくみ」津田康裕氏(名古屋市職労)。東海ブロックからは、岐阜県社保協から「岐阜市の国保料の引き下げと減免運動について」早野幸弘氏（岐阜北民商事務局長）から、三重県社保協から「三重県国保の現状と課題」を藤井新一氏（三重県社保協事務局次長）から報告を受け、学習し交流しました。
10/1 国保改善運動交流集会動画、YouTube にアップ。https://youtu.be/DIttaZDptuQ

貧困問題全国キャラバン～コロナ禍・物価高のなか、いま問われている「健康的で文化的な最低限度の生活」とは～

１０月１日愛知県弁護士会主催の市民シンポジュウムが開かれ、120 人の参加がありました。弁護士会は、「生活保護基準の大幅引き下げから１０年。保護基準の引き下げは国民生活の様々な分野に大きな影響を与えています。いっぽうコロナ禍のなか、こどもの貧困、シングルマザー、住居の貧困、さまざまな分野で貧困が広がっています。いま、国民生活の保障が重要な課題となっています。愛知県弁護士会では、貧困問題・多重債務対策本部を中心として、日本弁護士連合会と連携して貧困問題に取り組んできました。このたび日本弁護士連合会の「貧困問題全国キャラバン」において、生活保護の基準や健康的で文化的な最低限度の生活について、みなさまと一緒に考えたいと思います」と参加を呼びかけました。

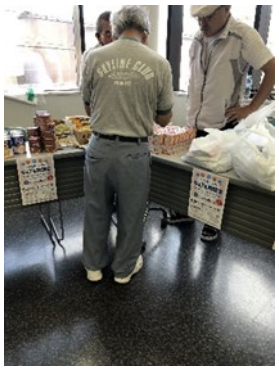
支援連絡会の藤原佳子(福祉保育労)さんは、「一部の、この裁判に対する日弁連の取り組みの報告は、これまでの裁判報告としても大変わかりやすく、全体がよく分かりました。一番最後に話されていた、『生活保障法制定運動の一環として、他の人権課題とも連動した盛り上げを』ということが、今後（今もですが）目指す運動の方向として意識したいことだと思いました。し、私たちおのおのが、日頃かかわっているいろいろな市民運動の中で取り込んで広げていくことが必要だと思いました。第二部は貧困実態の現状がよく分かるお話でした。興味を持ったのは韓国の取り組みでした。添付トークセッション 2 の方にありますので見ていただけると良いと思いますが、一部の「生活保障法」のようなことがすでに韓国では実現し歩み出しているというこ

と・・・。名称が「国民基礎生活保障」そして、家賃だけ、医療だけという単給化によってどうにもならなくなるところまで丸裸になって支援を受けるより遙かに救いやすく救われやすいということ。日本の政策もそのようになれば（日弁連の提案にも入っています）、今困窮している人たちの多くが、回復しやすいのではないかなと思います。この保障政策が成立したきっかけは、ソウルの母娘練炭自殺により世論が動いたということ、国民運動になって変わっていったということです。日本でも「おにぎり食べたい・・・」以降、何人も何世帯もの方が命を落としていますが、未だ変わらず。政府や行政だけでなく私たちが慣れてしまってはいけないなと思いました。会場では愛知連絡会の藤井さんも生活困窮の現場実態を発言されていました。大変内容の濃い、そしてわかりやすいシンポジウムで良かったです。ありがとうございました」とメールで寄せられました。

10月2日後期高齢者医療制度、保険料値上げはしないで！と不服審査請求858件を提出

１０月２日(月)午後２時から、愛知県自治センターの会場にて、年金者組合、新日本婦人の会、生活と健康を守る会の各代表３０名が提出しました。冒頭に、年金者組合執行委員長の渡辺義巳さんが挨拶、「高齢者のくらしは、ひっ迫している。年金の連続引き下げ、物価の高騰で深刻。これ以上の保険料負担の引き上げは許せない。高齢者の怒りの声を受け止めて欲しい」(写真中央)。この日は、年金者組合 708 件、新婦人愛知県本部から 133 件、生健会 17 件合計８５８件でした。

第3回いのちと暮らしを守る　なんでも電話相談会



９月３０日第３回目のなんでも相談会が開催され、９１件の電話相談と、食料提供を求める人が押し寄せました。

この日に向け、記者会見や地域への１５００のチラシ配布、フードバンクからの食糧調達など準備万端。当日はNHK が朝から取材に入、放映されました。代表的な相談・国への要望（愛知）として、家族４人で、この数日間、何も食べていない。お金も食べるものもない。フードサービスの食料をゆうパックで送りました。

１２月２３日(土)第４回の相談会を予定します。労働会館ホールで電話相談とフードバンク食糧支援を、また、愛知県司法書士会館でも２回線を使った電話相談を予定されます。相談者として、また食糧支援にご参加ください。